

## 令和6年度学校評価の結果と改善策について

### Ⅰ 部・分掌部評価の結果について

#### 【改善策を検討する視点】

- ・部・分掌部評価の数値が「2」以下の項目。

#### (1) 各部における評価の結果について

- ・評価の数値が「2」以下はなく、全て3～4の評価だった。

#### (2) 各分掌部における評価の結果について

- ・評価の数値が「2」以下はなく、全て3～4の評価だった。

### 2 教職員、保護者、児童生徒アンケートの結果について

#### 【改善策を検討する視点】

- ・平均値が中央値である 2.5 ポイントを下回った項目。
- ・昨年度と比較して、平均値が 0.5 ポイント以上下回った項目。
- ・「達成度」が 75%を下回った項目。
- ・自由記述に意見が挙がった項目で、改善策の検討が必要又は望ましいと判断された項目。

「達成度」とは、4段階評価において4又は3と評価した人の全体に対する割合のこと。  
達成度 75%は、全体の 75%の人（4人中3人）が「良い」という評価である4又は3と評価したことを意味する。

#### (1) 教職員アンケートの結果について

- ・回答者数は 147/177 で、回答率 83.1%（昨年度 89.2%）だった。
- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より 0.5 ポイント以上下回ったのは、NO.13 の個別の指導計画、NO.42 の情報提供・連絡の2項目だった。
- ・達成度が 75%を下回った項目はなかった。  
※令和5年度は1項目（NO.28 の施設・設備の充実）
- ・自由記述では、人員不足や業務過多（偏り）による多忙感、教室（施設）不足・老朽化・安全面の不安に関する意見が挙がった。それ以外の意見については、全校的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断はしないが、個別に対応が必要な意見があり、それらについては、管理職や該当部で対応していく。

#### (2) 児童生徒アンケートの結果について

- ・回答者数は 254/285 で、回答率は 89.1%（昨年度 72.3%）だった。
- ・平均値が 2.5 ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より 0.5 ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が 75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述の内容により、全校的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断はしないが、個別に対応が必要な意見があり、それらについては、管理職や該当部で対応していく。

### (3) 保護者アンケートの結果について

- ・回答者数数は197/319で、回答率は61.7%(昨年度67.2%)だった。昨年度と同様、web上での回答と希望者には用紙を配付して回答してもらった。今年度も、文書とメールメイトにて依頼した。
- ・平均値が2.5ポイントを下回った項目はなかった。
- ・平均値が昨年度より0.5ポイント下回った項目はなかった。
- ・達成度が75%を下回った項目はなかった。
- ・自由記述では、教室(施設)不足・老朽化・安全面の不安、必要な情報が提供されない(遅い)という意見が挙がった。それ以外の意見については、全校的に改善策の検討が必要又は望ましいと判断はしないが、個別に対応が必要な意見があり、それらについては、管理職や該当部で対応していく。

## 3 学校関係者評価の結果について

### (1) 教職員の回答率の低さについて

- ・学校評価の意義についての説明が不足していたことや、学校運営への参画意識を高めていく必要性がある。
- ・一方で、心身の状態が不調な職員は、学校評価に臨むことが一層の負担を掛けることも想定される。このようなケースにおいては、本人の考えを尊重しながら、可能な範囲で対応してもらうようにする。

### (2) 不登校の児童生徒について

- ・教育支援部の課題として挙げられているが、現状はどのようになっているか。  
→管理職会において、現状把握はできている。
- ・今後、部間でも連携しながら、学校全体で取り組んでいく必要がある。

## 4 改善策について

部・分掌部評価、教職員、保護者、児童生徒アンケートの結果から、以下の点について改善策を講じることとする。

### (1) 個別の指導計画を活用した個に応じた指導の充実について

- ・個別の指導計画の作成・評価について、今後も検討し合う時間を確保していく。
- ・研究授業や授業研究会はもとより、日頃の授業実践の中で、相互に学び合う意識を高める。
- ・個々の職員は自身に必要な課題を意識し、管理職は職員が希望する研修を受けることができる機会を確保できるよう努める。

### (2) 働き方改革について

- ・引き続き、安全衛生委員会を中心に、職員アンケート等を実施し改善の進捗状況を確認しながら、進めていく。  
また、各部・分掌部においても、業務の見直しを引き続き進める。
- ・組織として業務改善を進めつつ、各個人の働き方を見直しワークライフバランスの推進を働き掛けていく。
- ・学校の開錠時刻と施錠時刻の見直しを継続し、教職員が学校に滞在している時間を短縮することで、超過勤務の削減を図る。(県が定める目標値:令和7年度 月45時間以上の教職員0%)

### (3) 施設・設備の充実及び老朽化への対応について

- ・雨漏りや危険箇所への対応については、そのつど修理や工事を行い、安全を確保する。
- ・老朽化への対応については県の教育長や関係課による学校視察があり、学校の状況についてこれまでも情報共有を行ってきた。今年度は、あたご小中学部棟及び体育館については県が耐力度調査を行い、建物の現状について確認をした。これらの結果から、教室不足や老朽化が進んでいることについては、十分、県の理解を得ているところである。
- ・校舎の建て替えについては、莫大な予算を伴うため、今後も県と連絡調整を図っていく。

#### (4) 迅速かつ正確な情報提供・連絡について

- ・現在、保護者への連絡・情報提供は、電話、連絡帳、文書、メールメイト、ホームページで行っている。今後も、どの手段が最も有効か考えながら、あるいは複数の手段を使いながら、情報を正確に伝えられるようにする。
- ・今後、前述の手段以外にも、有効な情報提供の手段がないか、検討していく。
- ・保護者の意見に、「早く知りたい」という声が多かったことから、なるべく早めに知らせることを心掛ける。例えば、詳細は後日知らせるとしても、時期や日程だけでも先に知らせるなどの工夫をしていく。
- ・情報は、できるだけ見やすいレイアウトや、分かりやすい表現（専門用語は避けるなど）を用い、「伝わりやすさ」「見やすさ」に留意する。

#### **5 総括**

- ・アンケートは基本的に web 回答としたが、回答率が低かったことから、回答率を上げる工夫をする必要がある。実施時期や方法、事前の説明・周知、職員や保護者への働き掛けなど、次年度の実施に向けて検討していく。
- ・毎年、課題（意見）として挙がる項目（施設・設備、働き方改革）に及び不登校の児童生徒の対応については、管理職会の重点的に取り組む内容として取り上げ、改善に向けて努力する。
- ・今回、児童生徒及び保護者の評価が高かったことは、職員の日々の努力と実践の積み重ねが成果として表れたものとする。今後も、さらに良い教育活動となるよう、今の取組を継続・発展するよう努める。